



ユーザ デバイス プロファイルの管理

この章では、ユーザ デバイス プロファイルの管理について説明します。Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) の[ユーザ デバイス プロファイル (User Device Profiles)] (UDP) オプションを使用すると、大量のユーザ デバイス プロファイルを追加または削除できます。また、ユーザ デバイス プロファイルに対して回線の追加または更新を行うこともできます。システムでは、UDP をエクステンション モビリティ機能と組み合わせて使用します。

- [ユーザ デバイス プロファイルの追加, 1 ページ](#)
- [ユーザ デバイス プロファイル関連のトピック, 18 ページ](#)

ユーザ デバイス プロファイルの追加

BAT を使用してユーザ デバイス プロファイルを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加する際に、複数の回線やその他の機能を追加できます。

ユーザ デバイス プロファイル用の CSV データ ファイルを作成するための 2 つのオプションから選択します。

- BAT スプレッドシート (BAT.xlt) を使用して、データを CSV 形式にエクスポートします。
- テキストエディタを使用して、CSV 形式のテキストファイルを作成します (経験豊富なユーザ向け)。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ デバイス プロファイル (User Device Profiles)] > [ユーザ デバイス プロファイル テンプレート (User Device Profile Template)] の順に選択します。[UDP テンプレートの検索/一覧表示 (Find and List UDP Templates)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 次のいずれかのオプションの手順に従って、CSV データ ファイルを作成します。
 - a) BAT スプレッドシート オプション
BAT スプレッドシートを開き、CSV データ ファイルを作成します。

b) テキスト エディタ オプション

- 1 [UDP ファイル形式の作成 (Create UDP File Format)] を選択します。[UDP ファイル形式クエリ (UDP File Format Query)] ウィンドウが表示されます。
- 2 テキスト エディタを使用して、ユーザ デバイス プロファイル用の CSV データ ファイルを作成します。このファイルは、使用するファイル形式に従います。
- 3 [ファイル形式の追加 (Add File Format)] を選択します。[ファイル形式の設定の追加 (Add File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [ユーザ デバイス プロファイルの検証 (Validate User Device Profiles)] を選択します。
[ユーザ デバイス プロファイルの検証 (User Device Profiles Validation)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 [ユーザ デバイス プロファイルの挿入 (Insert User Device Profiles)] を選択します。
[ユーザ デバイス プロファイルの挿入の設定 (User Device Profiles Insert Configuration)] ウィンドウが表示されます。

関連トピック

[ユーザ デバイス プロファイルのファイル形式の追加](#)

[ユーザ デバイス プロファイル一括管理ツール \(BAT\) テンプレートの作成](#)

[ユーザ デバイス プロファイル用のテキストベースの CSV ファイルの作成](#)

[BAT スプレッドシートを使用したユーザ デバイス プロファイル CSV データ ファイルの作成, \(2 ページ\)](#)

[ユーザ デバイスに関するユーザ デバイス プロファイルの挿入](#)

[ユーザ デバイス プロファイル関連のトピック, \(18 ページ\)](#)

[ユーザ デバイス プロファイルのファイル形式の設定](#)

[ユーザ デバイス プロファイルの検証](#)

BAT スプレッドシートを使用したユーザ デバイス プロファイル CSV データ ファイルの作成

BAT スプレッドシートを使用して新しいユーザ デバイス プロファイルを追加するための CSV データ ファイルを作成できます。BAT スプレッドシートを使って新しいユーザ デバイス プロファイルを追加するときに、スプレッドシート内でファイル形式を定義できます。スプレッドシートでは、CSV データ ファイル用のフィールドを表示するためにデータ ファイル形式が使用されます。

BAT スプレッドシート内のすべてのフィールドの編集が終了したら、その内容を CSV 形式のデータ ファイルにエクスポートできます。ファイルは、C:\XLSDATAFiles またはローカル ワークステーション上の選択した既存の別のフォルダに保存され、次のデフォルトファイル名が割り当てられます。

```
<tabname>-<timestamp>.txt
```

ここで、<tabname>は作成された入力ファイルのタイプ（電話機など）を表し、<timestamp>はファイルが作成された正確な日時を表します。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager サーバから BAT.xlt ファイルをダウンロードします。
- ステップ 2** BAT スプレッドシートを開きます。スプレッドシートの機能を使用するように求められたら、[マクロを有効にする (Enable Macros)] をクリックします。
- ステップ 3** [ユーザデバイスプロファイル (User Device Profiles)] オプションを表示するには、スプレッドシートの下部にある [ユーザデバイスプロファイル (User Device Profile)] タブをクリックします。
- ステップ 4** ユーザ デバイス プロファイルごとに定義可能なデバイス フィールドと回線フィールドを選択するには、[ファイル形式の作成 (Create File Format)] をクリックします。[フィールドの選択 (Field Selection)] ポップアップ ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** デバイス フィールドを選択するには、[デバイスフィールド (Device Field)] ボックスでデバイス フィールド名をクリックした後、矢印をクリックしてそのフィールドを [選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] ボックスに移動します。
CSV データ ファイルには [デバイスプロファイル名 (Device Profile Name)] と [説明 (Description)] が含まれている必要があります。このため、これらのフィールドは常に選択されたままになります。
- ヒント** リスト内のアイテムの範囲を選択するには、Shift キーを押したままにします。ランダムにフィールド名を選択するには、Ctrl キーを押したままに複数のフィールド名をクリックします。
- ステップ 6** [回線フィールド (Line Field)] ボックスで回線フィールド名をクリックした後、矢印をクリックしてそのフィールドを [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] ボックスに移動します。
- ヒント** [選択されている回線 (Selected Line)] ボックスと [デバイス (Device)] ボックス内ではアイテムの順序を変更できます。フィールドをリストの上位に移動するには、アイテムを選択して上矢印を使用します。フィールドをリストの下位に移動するには、アイテムを選択して下矢印を使用します。
- ステップ 7** CSV データ ファイル形式を変更するには、[作成 (Create)] をクリックします。既存の CSV 形式を上書きするかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。[OK] をクリックします。
選択されたフィールドの新しい列が、指定された順序で BAT スプレッドシート内に表示されます。
- ステップ 8** [電話回線数 (Number of Phone Lines)] ボックスを探すために、右にスクロールします。
ここで指定する回線数は、BAT テンプレートで設定された回線数を超えてはなりません。超える場合、CSV データ ファイルと UDP テンプレートを挿入したときにエラーが発生します。
- ステップ 9** [スピードダイヤルの番号 (Number of Speed Dials)] ボックスに、短縮ダイヤル ボタンの数を入力する必要があります。数値を入力すると、短縮ダイヤル番号ごとの列が表示されます。
- (注) ユーザ デバイス プロファイル テンプレートで設定された短縮ダイヤルの数を超えないようにしてください。超える場合、CSV データ ファイルと UDP テンプレートを挿入したときにエラーが発生します。

- ステップ 10** スプレッドシートの各行で、個別のユーザデータプロファイルに関するデータを入力します。すべての必須フィールドと該当するオプション フィールドに値を入力します。各列の見出しではフィールドの長さが指定され、また必須であるか、オプションであるかも指定されます。フィールドの説明については、[表 1 : BAT スプレッドシート内のユーザ デバイス プロファイルに関するフィールドの説明](#)、(4 ページ) を参照してください。
- ステップ 11** BAT Excel スプレッドシートから CSV 形式のデータ ファイルにデータを転送するには、[BAT形式にエクスポート (Export to BAT Format)] をクリックします。システムはデフォルトのファイル名 <tablename>-<timestamp>.txt を使用して、ファイルを C:\XLSDataFiles\ またはローカル ワークステーション上の選択した既存の別のフォルダに保存します。
- (注) エクスポートした CSV データ ファイルの読み取り方法を確認するには、BAT 内の [ユーザ デバイス プロファイルの挿入 (Insert User Device Profiles)] ウィンドウで [サンプル ファイルの表示 (View Sample File)] リンクをクリックしてください。

次の作業

CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバにアップロードします。

関連トピック

- [CSV データ ファイルを作成するために BAT スプレッドシートのデータを収集するサーバからのファイルのダウンロード](#)
- [ユーザ デバイス プロファイル関連のトピック](#)、(18 ページ)
- [サーバへのファイルのアップロード](#)

BAT スプレッドシートのユーザ デバイス プロファイル フィールドの説明

次の表で、BAT スプレッドシート内のすべてのユーザ デバイス プロファイル フィールドについて説明します。

表 1 : BAT スプレッドシート内のユーザ デバイス プロファイルに関するフィールドの説明

フィールド	説明
デバイス フィールド (必須フィールド)	
デバイス プロファイル名 (Device Profile Name)	デバイス プロファイル名の固有 ID を入力します。

フィールド	説明
説明	<p>電話機またはデバイスの識別に役立つ説明を入力します（「Conference Room A」、「John Smith」など）。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符（"）、パーセント記号（%）、アンパサンド（&）、バックslash（\）、山カッコ（<>）は使用できません。</p>
デバイス フィールド（オプション フィールド）	
ユーザ ロケール（User Locale）	<p>この IP Phone のグループに関連付ける国/地域と言語の組み合わせを入力します。</p> <p>この選択項目によって、このユーザの文化に依存する属性と、Cisco Unified Communications Manager のユーザ ウィンドウおよび電話機でユーザに表示される言語が決まります。</p>
ソフトキー テンプレート（Softkey Template）	このグループのすべての電話機で使用されるソフトキー テンプレートを入力します。
ユーザ ID（User ID）	電話ユーザのユーザ ID を入力します。
[ログイン ユーザ ID（Login User ID）]	<p>デフォルト プロファイル用のログイン ユーザ ID を入力します。</p> <p>ユーザ デバイス プロファイルがログアウト プロファイルとして使用される場合は、電話機に関連付けるログイン ユーザ ID を指定します。ユーザがこのユーザ デバイス プロファイルからログアウトすると、電話機が自動的にこのログイン ユーザ ID にログインします。</p>
[ユーザ保留音源（User Hold Audio Source）]	<p>この IP フォンまたは CTI ポートのグループに使用されるユーザ保留音源を入力します。</p> <p>ユーザ保留音源は、ユーザがコールを保留にしたときに再生される保留音の音源を特定します。</p>
電話機テンプレート	このユーザ デバイス プロファイルに関連付ける電話テンプレート名を入力します。
[MLPP 通知（MLPP Indication）]	この設定は、優先トーンを再生できるデバイスで、MLPP 優先コールの発信時にこの機能を使用するかどうかを指定します。
[MLPP プリエンプション（MLPP Preemption）]	利用可能な場合、この設定は、進行中のコールをプリエンプションできるデバイスで、MLPP 優先コールの発信時にこの機能を使用するかどうかを指定します。

フィールド	説明
[常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line)]	<p>次のいずれかのオプションを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オフ (Off)] : 電話がアイドル状態になっているときにいずれかの回線でコールを受信すると、電話のユーザは、コールを受信した回線からコールに応答します。 • [オン (On)] : 電話機がアイドル状態 (オフフック) になっているときにいずれかの回線でコールを受信すると、このコールにプライマリ回線が選択されます。他の回線のコールの呼び出し音は鳴り続けます。電話のユーザは、他の回線を選択してこれらのコールに応答する必要があります。 • [デフォルト (Default)] : Cisco Unified Communications Manager は Cisco CallManager サービスをサポートする [常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line)] サービス パラメータの設定を使用します。
[ボイスメッセージには常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line for Voice Message)]	<p>次のいずれかのオプションを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オン (On)] : 電話がアイドル状態の場合に電話のメッセージ ボタンを押すと、電話のプライマリ回線がボイスメッセージを受信するアクティブな回線になります。 • [オフ (Off)] : 電話がアイドル状態の場合、電話のメッセージ ボタンを押すと、ボイスメッセージが設定されている回線からボイスメッセージシステムに自動的にダイヤルされます。Cisco Unified Communications Manager は、常に、ボイスメッセージが設定された最初の回線を選択します。ボイスメッセージが設定されている回線が存在しない場合に電話のユーザが [メッセージ (Messages)] ボタンを押すと、プライマリ回線が使用されます。 • [デフォルト (Default)] : Cisco Unified Communications Manager は、Cisco CallManager サービスをサポートする [ボイスメッセージには常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line for Voice Message)] サービス パラメータの設定を使用します。
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)]	<p>このデバイスに関連付けられる MLPP ドメインを表す 16 進数値を入力します。空白または 0 ~ FFFFFFF の値にする必要があります。</p>

フィールド	説明
機能管理ポリシー (Feature Control Policy)	この電話機グループの機能管理ポリシーを選択します。 機能管理ポリシーは、電話機に表示される機能とそれぞれの機能に関連付けられるソフトキーの外観を指定します。
Extension Mobility Cross Cluster CSS	クラスター間エクステンションモビリティ CSS の設定は、ユーザが EMCC ログイン時にこのデバイスプロファイルを選択した場合に、リモート電話のデバイス CSS として使用されます。
回線フィールド (オプションフィールド)	
[電話番号 (Directory Number)]	電話機の電話番号を入力します。
[ルートパターン (Route Pattern)]	電話番号が属するルートパーティションを選択します。 この電話番号は、複数のパーティションで表示される可能性があります。
Display	コール着信側の電話機ディスプレイに表示するテキストを入力します (たとえばユーザ名「John Smith」や電話機の設置場所「Conference Room 1」など)。 このフィールドを空白のままにすると、[電話番号 (Directory Number)] フィールドに入力された値が使用されます。 デフォルトの言語として英語が指定されています。
[転送コーリングサーチスペース (Forward All CSS)]	指定の接続先にコールが転送される時に使われるコーリングサーチスペースを選択します。 この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
不在転送の接続先 (Forward All Destination)	すべてのコールの転送先となる電話番号またはディレクトリ URI を入力します。 この設定は、外部の接続先 (制限されていない場合) を含め、ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
話中転送コーリングサーチスペース (外部) CSS (Forward Busy External CSS)	外部番号からのコールが指定の接続先に転送される時に使われるコーリングサーチスペースを選択します。 この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。

フィールド	説明
話中転送コーリング サーチ スペース (内部) (Forward Busy Internal CSS)	内部番号からのコールが指定の接続先に転送されるときに使用されるコーリング サーチ スペースを選択します。 この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
話中転送 (外部) 接続先 (Forward Busy Destination External)	回線が使用中のときに、外線番号から着信したコールの転送先となる電話番号またはディレクトリ URI を入力します。 この設定は、外部の接続先 (制限されていない場合) を含め、ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
話中転送 (内部) 接続先 (Forward Busy Destination External)	回線が使用中のときに、内線番号から着信したコールの転送先となる電話番号またはディレクトリ URI を入力します。 この設定は、外部の接続先 (制限されていない場合) を含め、ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
無応答時転送コーリング サーチ スペース (外部) (Calling Search Space Forward No Answer External)	外部番号からのコールが指定の接続先に転送されるときに使用されるコーリング サーチ スペースを選択します。この設定は、システムで設定されている場合のみ表示されます。 この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
無応答時転送コーリング サーチ スペース (内部) (Forward No Answer Internal CSS)	内部番号からのコールが指定の接続先に転送されるときに使用されるコーリング サーチ スペースを選択します。この設定は、システムで設定されている場合のみ表示されます。 この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
無応答時転送の接続先 (外部) (Forward No Answer External Destination)	電話機が応答しない場合に、外線番号から着信したコールの転送先となる電話番号またはディレクトリ URI を入力します。 この設定は、外部の接続先 (制限されていない場合) を含め、ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
無応答時転送の接続先 (内部) (Forward No Answer Internal Destination)	電話機が応答しない場合に、内線番号から着信したコールの転送先となる電話番号またはディレクトリ URI を入力します。 この設定は、外部の接続先 (制限されていない場合) を含め、ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。

フィールド	説明
無カバレッジ時転送コーリング サーチ スペース (外部) (Forward No Coverage External CSS)	外部番号からのコールが指定の接続先に転送されるときに使 われるコーリング サーチ スペースを入力します。この設定 は、システムで設定されている場合にのみ表示されます。 この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに 適用されます。
無カバレッジ時転送コーリング サーチ スペース (内部) (Forward No Coverage Internal CSS)	内部番号からのコールが指定の接続先に転送されるときに使 われるコーリング サーチ スペースを入力します。この設定 は、システムで設定されている場合にのみ表示されます。 この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに 適用されます。
無カバレッジ時転送の接続先 (外 部) (Forward No Coverage External Destination)	電話機のカバレッジがない場合に、外線番号から着信したコ ルの転送先となる電話番号またはディレクトリ URI を入力し ます。 この設定は、外部の接続先 (制限されていない場合) を含め、 ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電話番号を使用す るすべてのデバイスに適用されます。
無カバレッジ時転送の接続先 (内 部) (Forward No Coverage Internal Destination)	電話機のカバレッジがない場合に、内線番号から着信したコ ルの転送先となる電話番号またはディレクトリ URI を入力し ます。 この設定は、外部の接続先 (制限されていない場合) を含め、 ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電話番号を使用す るすべてのデバイスに適用されます。
失敗時転送 (外部/内部) コーリ ング サーチ スペース (Calling Search Space Forward on Failure External/Internal)	(CTI ポートのみ) 内部番号または外部番号からのコールが指 定の接続先に転送されるときに使われるコーリング サーチ スペースを入力します。この設定はシステムで設定されている 場合にのみ表示されます。 この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに 適用されます。
失敗時転送 (外部/内部) 接続先 (Forward on Failure Destination External/Internal)	(CTI ポートのみ) 電話または CTI アプリケーションに障害 が発生したときに、内部番号または外部番号からのコールの 転送先となる電話番号またはディレクトリ URI を入力します。

フィールド	説明
無応答時転送の呼び出し時間 (Call Forward No Answer Ring Duration)	<p>コールに呼び出しを許可する秒数 (1 ~ 300) を入力します。この時間に達すると、コールは [無応答時転送の接続先 (Forward No Answer Destination)] フィールドに入力された接続先番号に転送されます。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager の [無応答時転送タイマー (Forward No Answer Timer)] サービス パラメータの設定値を使用するには、このフィールドを空白のままにします。</p>
[ルートフィルタ (Route Filter)]	<p>[ルートフィルタ名 (Route Filter Name)] フィールドに名前を入力します。名前には、最大 50 文字の英数字を入力できます。また、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、アンダースコア (_) の各記号も任意の組み合わせで含めることができます。各ルートフィルタ名がルートプランに一意であることを確認します。</p> <p>簡単に識別しやすい名前をルート フィルタに使用します。通常は、「会社名/場所/コール タイプ」という形式を使用すると、適切な詳細情報を含めながら、ルートフィルタをすばやく簡単に識別できる短い名前になります。たとえば CiscoDallasMetro とすると、ダラスのシスコオフィスからの無料 Local Access and Transport Area (LATA) 内コールに関するルート フィルタであることを識別できます。</p>
[パーティ参加トーン (Party Entrance Tone)]	<p>次のいずれかのオプションを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : [パーティ参加トーン (Party Entrance Tone)] サービス パラメータに設定された値を使用します。 • [オン (On)] : 基本コールがマルチパーティ コール (つまり割り込みコール、C 割り込みコール、アドホック会議、ミーティング会議、参加コール) に変更されるときに、電話でトーンが再生されます。さらに、いずれかの通話者がマルチパーティ コールを離れると、別のトーンが再生されます。制御デバイス (つまりマルチパーティ コールの発信元) にビルトインブリッジがある場合、制御デバイスで [オン (On)] を選択すると、すべての通話参加者に対してトーンが再生されます。制御デバイス (会議コントローラなど) がコールに残っていない場合や、制御デバイスがトーンを再生できない場合には、[オン (On)] を選択してもトーンが再生されません。 • [オフ (Off)] : 基本コールがマルチパーティ コールに変更されたときに、電話でトーンが再生されません。

フィールド	説明
[不在着信のログ (Log Missed Calls)]	このフィールドを使用して、この機能をオンまたはオフにすることができます。Cisco Unified Communications Manager が電話機とその電話番号に関するコール履歴に不在着信を記録できるようにするには、「T」と入力します。この機能を無効にするには、「F」と入力します。
未取得時のパーク モニタリング転送の接続先 (外部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External)	パークされている側が外部である場合、パークしたユーザの [未取得時のパーク モニタリング転送の接続先 (外部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External)] パラメータで指定された接続先にコールが転送されます。[未取得時のパーク モニタリング転送の接続先 (外部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External)] フィールドの値が空の場合、パークされた側のコールは、パークしたユーザの回線にリダイレクトされます。
未取得時のパーク モニタリング転送の接続先 (内部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Internal)	パークされている側が内部である場合、パークしたユーザの [未取得時のパーク モニタリング転送の接続先 (内部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Internal)] パラメータで指定された接続先にコールが転送されます。[未取得時のパーク モニタリング転送の接続先 (内部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Internal)] が空の場合、パークされた側のコールは、パークしたユーザの回線にリダイレクトされます。
未取得時のパーク モニタリング転送 (内部) ボイスメール (Park Monitoring Forward No Retrieve Internal Voice Mail)	この設定には、[ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウの設定が使用されます。このボックスをオンにすると、Cisco Unified Communications Manager は [接続先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定を無視します。
未取得時のパーク モニタリング転送 (外部) ボイスメール (Park Monitoring Forward No Retrieve External Voice Mail)	この設定には、[ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウの設定が使用されます。このボックスをオンにすると、Cisco Unified Communications Manager は [接続先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定を無視します。
パーク モニタリング転送非取得時の外部 CSS (Park Monitoring Forward No Retrieve External CSS)	その電話番号に適用するコーリングサーチスペースを選択します。

フィールド	説明
パーク モニタリング転送非取得時の内部 CSS (Park Monitoring Forward No Retrieve Internal CSS)	その電話番号に適用するコーリング サーチ スペースを選択します。
パーク モニタリング復帰タイマー (Park Monitoring Reversion Timer)	このパラメータは、ユーザがパークしたコールを取得するよう同じユーザに促すまでに Cisco Unified Communications Manager が待機する秒数を決定します。このタイマーが開始するのは、ユーザが電話機の [パーク (Park)] ソフトキーを押したときです。タイマーが時間切れになるとアラームが鳴ります。 デフォルトは 60 秒です。 0以外の値を設定すると、その値によって、[サービスパラメータ (Service Parameters)] ウィンドウで設定されたこのパラメータの値が上書きされます。ただし、ここで値0を設定すると、[サービスパラメータ (Service Parameters)] ウィンドウの値が使用されます。
E164	常に一意の E.164 番号を使用します。Null 値は使用しないでください。
ボイス メール プロファイル (Voice Mail Profile)	パイロット番号をこの回線の電話番号と同じにするには、このパラメータを入力します。この操作は、この電話機でボイス メッセージング サーバが設定されていない場合に役立ちます。
回線コーリング サーチ スペース (Line Calling Search Space)	この電話番号から発信された番号を検索する対象のパーティションを入力します。 (注) この設定を変更すると、[コールピックアップグループ (Call Pickup Group)] フィールドにリストされているコールピックアップ名が更新されます。この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[AARグループ (AAR Group)]	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを入力します。AAR グループは、帯域幅不足のためにブロックされるコールをルーティングするために使用するプレフィックス番号を提供します。 [AARグループ (AAR Group)] を [なし (None)] に設定すると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。
回線ユーザ保留音源 (Line User Hold Audio Source)	ユーザが HOLD を押してコールを保留にしたときに流れる保留音の音源を入力します。

フィールド	説明
回線ネットワーク保留音源 (Line Network Hold Audio Source)	ユーザがコールを転送しているとき、または電話会議やコールパークを開始しているときに、システムがコールを保留にすると再生される保留音の音源を入力します。
自動応答 (Auto Answer)	<p>次のいずれかの値を入力して、この電話番号の自動応答機能を有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [自動応答オフ (Auto Answer Off)] (デフォルト) • ヘッドセットで自動応答 • スピーカフォンで自動応答 (インターコム) (Auto Answer with speakerphone (intercom)) <p>(注) [ヘッドセットで自動応答 (Auto Answer with Headset)]または[スピーカフォンで自動応答 (Auto Answer with Speakerphone)]を選択するときには、ヘッドセットまたはスピーカフォンが無効になっていないことを確認してください。</p>
無応答時の呼び出し時間 (CFNA) (No Answer Ring Duration (CFNA))	コールに呼び出しを許可する秒数を入力します。この時間に達すると、コールは無応答時接続先に転送されます。
コール ピックアップ グループ (Call Pickup Group)	<p>ピックアップグループ名を入力して、コールピックアップグループを指定します。このグループは、適切なピックアップグループ番号をダイヤルすることにより、この回線への着信コールに応答できます。</p> <p>BAT 電話テンプレートのエントリを使用するには、このフィールドを空白のままにします。</p>
宛先 (MLPP) (Target Destination (MLPP))	<p>この電話番号が MLPP 優先コールを受信し、この電話番号と (この電話番号の) 転送先のどちらも優先コールに応答しない場合に、MLPP 優先コールの転送先となる番号を入力します。</p> <p>入力できる値は、数字、ポンド記号 (#)、およびアスタリスク (*) です。</p>
ターゲット CSS (MLPP) (Target CSS (MLPP))	ドロップダウンリストボックスから、代替パーティターゲット (宛先) の番号に関連付けるコーリングサーチスペースを選択します。

フィールド	説明
無応答時の呼び出し時間 (MLPP) (No Answer Ring Duration (MLPP))	この電話番号と、この電話番号の転送先のどちらも優先コールに 応答しない場合、ここに入力する秒数 (4 ~ 30) が経過すると、 MLPP 優先コールがこの電話番号の代替パーティに転送されます。 Cisco Unified Communications Manager エンタープライズ パラ メータ [優先代替パーティ タイムアウト (Precedence Alternate Party Timeout)] に設定されている値を使用するには、この設 定を空白のままにします。
[回線のテキストラベル (Line Text Label)]	回線と電話の組み合わせについて、このディレクトリ番号を 特定するテキストを入力します。 デフォルトでは、テキストの言語が英語に指定されます。
[外線電話番号マスク (External Phone Number Mask)]	この回線からコールが発信されたときに、発信者 ID 情報とし て送信される電話番号 (またはマスク) を入力します。 最大 30 個の番号と文字「X」 ""を入力できます。X は電話番 号を表し、パターンの最後に使用する必要があります。たと えば、マスク 972813XXXX を指定すると、内線 1234 からの外 部コールには、発信者 ID の番号として 9728131234 が表示さ れます。
コールの最大数 (Maximum Number of Calls)	クラスタ内のデバイスの回線あたり最大 200 件のコールを設 定できます。ただし、デバイスによって最大数は制限されま す。1つの回線のコール数を設定すると、別の回線で使用でき るコール数が少なくなります。 デフォルトは 4 です。電話機が各回線に対して複数のコール を許可しない場合、デフォルトで値が 2 に設定されます。 CTI ルートポイントの場合、ポートごとに最大 10,000 件のコー ルを設定できます。デフォルトではコール数が 5000 に指定さ れます。このフィールドは [話中トリガー (Busy Trigger)] フィールドと組み合わせて使用します。

フィールド	説明
<p>ビジョー トリガー</p>	<p>この設定は [コール最大数 (Maximum Number of Calls)] および [話中転送 (Call Forward Busy)] フィールドと共に機能し、その回線に存在できる最大コール数を決定します。たとえば、最大コール数を 50 に設定し、話中 トリガーを 40 に設定した場合、41 番目の着信コールはビジョーであるという理由で拒否されます ([話中転送 (Call Forward Busy)] が設定されている場合は転送されます)。この回線が共有されている場合は、すべての回線がビジョー状態になると着信コールが拒否されます。</p> <p>このフィールドは、CTI ルート ポイントの [コール最大数 (Maximum Number of Calls)] フィールドと組み合わせて使用します。デフォルトではコール数が 4500 に指定されます。</p>
<p>メッセージ受信ランプ ポリシー (Message Waiting Lamp Policy)</p>	<p>このフィールドを使用して、ハンドセットのランプ点灯ポリシーを設定します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [システム ポリシーを使用する (Use System Policy)] (電話番号は [メッセージ受信点灯ポリシー (Message Waiting Lamp Policy)] サービス パラメータの設定を参照します。) “” • 点灯およびプロンプト (Light and Prompt) • プロンプトのみ (Prompt Only) • 点灯のみ (Light Only) • なし
<p>呼出音設定 (電話がアイドルのとき) (Ring Setting (Phone Idle))</p>	<p>着信コールがあり、そのデバイスで他のアクティブ コールがない場合の、ライン アピアランスの呼び出し音設定を選択します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [システムデフォルトを使用 (Use System Default)] • 無効 (Disable) • [フラッシュのみ (Flash only)] • [一度鳴らす (Ring once)] • 呼出音 (Ring) <p>(注) [無効 (Disable)] “” または [フラッシュのみ (Flash Only)] “” 設定は、ハンドセットにのみ適用されます。電話回線ボタンの LED ランプは引き続き点滅します。</p>

フィールド	説明
呼出音設定（電話がアクティブのとき）（Ring Setting (Phone Active)）	<p>電話の別の回線にアクティブ コールがあるときに使用される呼び出し音の設定を選択します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [システムデフォルトを使用（Use System Default）] • 無効（Disable） • [フラッシュのみ（Flash only）] • [一度鳴らす（Ring once）] • 呼出音（Ring） • [ビーブ音のみ（Beep only）] <p>(注) [無効（Disable）]“ ”または [フラッシュのみ（Flash Only）]“ ”設定は、ハンドセットにのみ適用されます。電話回線ボタンの LED ランプは引き続き点滅します。</p>
電話番号の URI (1-5)（URI (1-5) on Directory Number）	<p>この電話機の電話番号に関連付けるディレクトリ URI を入力します。username@host の形式で入力してください。最大 47 文字の英数字からなるユーザ名を入力します。ホストアドレスには、IPv4 アドレスまたは完全修飾ドメイン名を入力します。</p> <p>(注) Cisco Unified CM の管理ページで、二重引用符またはコンマが組み込まれた複数の URI を入力できます。ただし、一括管理を使用して、二重引用符やコンマが組み込まれたディレクトリ URI を含む csv ファイルをインポートする場合には、ディレクトリ URI 全体を二重引用符で囲み、組み込まれた二重引用符を二重引用符でエスケープする必要があります。たとえば、「Jared,"Jerry",Smith@test.com」というディレクトリ URI は、csv ファイルでは 「"Jared",""Jerry""",Smith@test.com"」と入力する必要があります。</p>
ルート パーティションの URI (1-5)（URI (1-5) on Route Partition）	<p>ディレクトリ URI が属するパーティションを入力します。ディレクトリ URI へのアクセスを制限しない場合は、このフィールドを空白のままにします。</p>

フィールド	説明
電話番号の URI (1-5) をプライマリにする (URI (1-5) Is Primary on Directory Number)	<p>このディレクトリ URI をこの内線番号のプライマリ ディレクトリ URI として指定するには、「t」 (True) と入力します。このディレクトリ URI をこの内線番号のプライマリ ディレクトリ URI として指定しない場合は、「f」 (False) と入力します。</p> <p>(注) 1つの電話番号に最大5つのディレクトリ URI を関連付けることができます。ただし、1つのプライマリ ディレクトリ URI を選択する必要があります。</p>
エンタープライズをローカル ルート パーティションに追加 (Enterprise Add to Local Route Partition)	このエンタープライズ代替番号をローカル ルート パーティションに追加するには、「t」 と入力します。E.164 番号をローカル ルーティングに含めない場合は、「f」 と入力します。
エンタープライズをグローバルでアドバタイズ (Enterprise Advertise via globally)	ILS でこの代替番号を ILS ネットワークの残りの部分にアドバタイズできるようにするには、「t」 と入力します。ILS にこの番号をアドバタイズさせない場合は、「f」 と入力します。
エンタープライズは緊急 (Enterprise Is Urgent)	<p>この代替番号を緊急として分類するには、「t」 と入力します。デフォルトでは、オーバーラップするルート パターンがダイヤル プランに含まれる場合、Cisco Unified Communications Manager は (ダイヤルされた番号にルートが存在する可能性があるとしても) 桁間タイマーが満了するまでコールをルーティングしません。この設定により、Cisco Unified Communications Manager はダイヤル文字列に関して可能なすべてのルートから最適一致を選択することができ、学習された番号と静的に設定された電話番号/番号パターンとのオーバーラップに対処できます。</p> <p>番号の優先順位を緊急としてマークすると、Cisco Unified Communications Manager はダイヤル番号と可能なルートとの間で一致を見つけたとき、桁間タイマー (たとえば T302 タイマー サービス パラメータ) が満了するのを待たずに、即時にコールをルーティングします。</p>
エンタープライズ番号マスク (Enterprise Number Mask)	電話番号に適用する番号マスクを入力します。Cisco Unified Communications Manager はこのマスクを適用して、この電話番号のエイリアスとなるエンタープライズ代替番号を作成します。
エンタープライズ ルート パーティション (Enterprise Route Partition)	このエンタープライズ代替番号の割り当て先となるルートパーティションを入力します。

フィールド	説明
+E.164 をローカル ルート パーティションに追加 (+E.164 Add to Local Route Partition)	この E.164 代替番号をローカル ルート パーティションに追加するには、「t」と入力します。E.164 番号をローカルルーティングに含めない場合は、「f」と入力します。
[+E.164をグローバルでアドバタイズ (Enterprise Advertise via globally)]	ILSでこの代替番号を ILS ネットワークの残りの部分にアドバタイズできるようにするには、「t」と入力します。ILS にこの番号をアドバタイズさせない場合は、「f」と入力します。
+E.164 は緊急 (+E.164 Is Urgent)	この代替番号を緊急として分類するには、「t」と入力します。 デフォルトでは、オーバーラップするルート パターンがダイヤル プランに含まれる場合、Cisco Unified Communications Manager は (ダイヤルされた番号にルートが存在する可能性があるとしても) 桁間タイマーが満了するまでコールをルーティングしません。この設定により、Cisco Unified Communications Manager はダイヤル文字列に関して可能なすべてのルートから最適一致を選択することができ、学習された番号と静的に設定された電話番号/番号パターンとのオーバーラップに対処できます。 番号の優先順位を緊急としてマークすると、Cisco Unified Communications Manager はダイヤル番号と可能なルートとの間で一致を見つけたとき、桁間タイマー (たとえば T302 タイマー サービス パラメータ) が満了するのを待たずに、即時にコールをルーティングします。
+E.164 番号マスク (+E.164 Number Mask)	電話番号に適用する番号マスクを入力します。Cisco Unified Communications Manager はこのマスクを適用して、この電話番号のエイリアスとなる +E.164 代替番号を作成します。
+E.164 ルート パーティション (+E.164 Route Partition)	この +E.164 代替番号の割り当て先となるルート パーティションを入力します。

ユーザ デバイス プロファイル関連のトピック

- [ユーザ デバイス プロファイルの追加, \(1 ページ\)](#)
- [ユーザ デバイスに関するユーザ デバイス プロファイルの挿入](#)
- [ユーザ デバイス プロファイルの削除](#)
- [ユーザ デバイス プロファイル レコードのエクスポート](#)
- [既存の電話機および UDP への電話回線の追加](#)

- [ユーザ デバイス プロファイル レポートの生成](#)

